

「私の町の古墳」

1126 杉山 真桜子

群馬県立中央中等教育学校

2021年8月22日

令和3年度「東国文化自由研究」

1. はじめに

私たちの住む群馬県には、古墳が身近にあります。例えば、通学路の途中に古墳があったり、公園の一角に古墳があったりします。また私の住む高崎市のとある小学校では、校歌に「古墳」という言葉も使われています。けれども、当たり前が存在する古墳について、私達は普段はあまり意識をして生活しているわけではありません。今回、古墳について調べていく中で、実は自分の住む町にも、ひょっとしたら古墳が存在しているのではないかと思い、実際に訪ねてみることにしました。

2. 時代による古墳の価値の変化

現在の私たちは「古墳は文化財である」という意識を持っています。けれども昔から人々は古墳を守るべきもの、と思っていたわけではないようです。まずは、群馬県立歴史博物館第103回企画展に足を運び、古墳が、人々にとってどのようなものであったか、文献[1]を参考に時代ごとに整理をしました。整理をすることで、人々が古墳を文化財とし保存するようになってきたのは、歴史上ではごく最近のことだと知って私はとても驚きました。

2.1 古代（奈良時代～平安時代）

奈良時代においては、平城京の造営に伴って、古墳が破壊されることがありました。平安時代の1060年には、推古天皇陵古墳がすでに盗掘にあっています。また、墳丘は、神社などの建立、村の木材や用水としても利用されました。実は私の住む町にも、古墳の上に建っている神社があります。

2.2 中世（鎌倉時代～室町時代）

鎌倉時代には、石棺を桶に転用するなどの部材の転用が行われました。また、1235年には天武・持統陵も盗掘されました。またこの時代には、城郭にも古墳が転用された例があります。

2.3 近世（江戸時代）

この時代には、古墳は新田開発でも破壊されました。けれども、江戸時代には人々の識字率が上がり、村の記録の中に古墳の記載が見られるようになります。また、水戸光圀は、侍塚古墳の調査と保護、具体的には、発掘後に、遺物を記録し、埋め戻して、松を植えて墳丘を保護しました。さらに、古墳は研究されるようにもなりました。江戸時代後期には、儒学者の蒲生君平が天皇陵を調査して「山稜志（さんりょうし）」を書き、この書物の中で初めて「前方後円墳」という言葉が使われました。幕末からの尊皇思想の高まりによっても、陵墓の存在は人々に広く知れ渡るようになりました。この頃、巨大な古墳は、徒歩で移動した人々にとって、道中の道しるべとなっていました。

2.4 近代（明治時代～戦前）

明治政府になると、地域の歴史の編さんが始まりました。幕末から続く尊皇攘夷運動の影響で、天皇の墓所としての山稜（陵墓）は、保護し、修繕するという意識が人々に根付きました。一方で、工業化が進むと、農村部でも開発が進み、古墳は破壊され、平坦地にされていきました。

2.5 現代（終戦～現在）

昭和25年に「文化財保護法」が制定され、古墳は文化財として認められ、古代の遺跡としてまもられるようになりました。【※e-Govで文化財保護法検索の仕方、抜粋を掲載】
開発で消失した古墳も、価値の高いものは復元されるようになりました。

3. 群馬県における近代以降の取り組み

文献[1]によれば、群馬県では、明治7(1874)年に県令として赴任した楢取素彦が、毛野国(群馬県、栃木県)の創始者とされる豊城入彦命の陵墓探索を行いました。

豊城入彦命とは、第10代崇神天皇の息子の一人であり、東国を治めるため派遣された人です。豊城入彦命の陵墓とされるのは、「豊城入彦命」の碑のある総社二子山古墳です。明治7年には、陵墓として保存、保護するために周囲に柵を建設し、日常的に陵墓を管理する墓掌や墓丁が地元の住民から任命されるようになりました。残念ながら、政府は「毛野国の創始者である豊城入彦命の御墓は、群馬、栃木の御墓を全て調べた上でないと断言できない」と、陵墓として認めない旨の通知を出しました。

ただし、この時代には、発見された埋蔵物の価値を国が認めて、買い取るようになりました。火薬製造施設が設置され、岩鼻二子山古墳が平坦地にされた群馬県高崎市岩鼻地域でも、埋蔵物は保存されています。

3.1 上毛古墳総覧

昭和10(1935)年、群馬県では県下全域で大規模な古墳調査が実施されました。調査には、小学校の教員などに委嘱して行われました。調査結果は、「古墳調査票」に記入され、分布図やスケッチも添えられています。この「上毛古墳総覧」は昭和13年刊行され、今でも原本が群馬県立文書館蔵に保管されています。全県域に及ぶ古墳の調査は、全国でも群馬県のみです。この調査で確認された古墳数は8,423基です。

3.2 群馬県古墳総覧

平成24年度から平成28年度までの5年間にわたる調査です。この調査では一般県民から公募した県民調査員も参加しました。この「群馬古墳総覧」は平成29(2017)年刊行され、販売されているほか、図書館などで閲覧できます。この調査で確認された古墳数は13,249基です。

この総覧を見ていたら、私の住む場所のすぐ近くにも古墳が存在することがわかりました。

4. わが町の古墳

群馬県古墳総覧[2,3]によれば、自宅近くの古墳があることがわかったので、それらの現在の姿がどうなっているのかにとっても興味がわきました。総覧では、その古墳はもう存在しないと書かれていましたが、現地を調査することにしました。なぜなら、自分の住む地域のことをもっと知りたいと思ったのと、有名な古墳はたくさん調査されているので、あまり知られていないありふれた古墳について、自分なりに調査したいと考えたからです。

次の表1が高崎市上中居町周辺にある古墳です。実際にすべて現地に行き、確認した結果を示します。

表 1. 群馬県古墳総覧に載っているわが町の古墳リスト (その 1)

番号 名称 所在地	現状	墳形	規模	写真	今のすがた	特記事項
332 上中居遺跡群 SZ1 周溝墓 高崎市上中居町 588 - 4	×	方	全長 9.3m × (9.0)m		空き地も しくは区 画整理 で、国道 345号に なってい る	かつてこの 一帯は「丸 茂屋敷」と 呼ばれ、堀 で囲まれて いたのこ と
333 上中居遺跡群 SZ2 周溝墓 高崎市上中居町 378-1 南道路部分	×	方	全長 11 ~ 11.5m × 10~ 11m		空き地も しくは区 画整理 で、国道 345号に なってい る	かつてこの 一帯は「丸 茂屋敷」と 呼ばれ、堀 で囲まれて いたのこ と
334 上中居辻薬師Ⅱ遺跡 1号方形周溝墓 高崎市上中居町字辻 薬師 1683-6 北	×	方	全長 8.9m × (6.0)m		空き地も しくは区 画整理 で、国道 345号に なってい る	特になし
335 上中居実辻薬師Ⅱ 2 号方形周溝墓 高崎市上中居町字辻 薬師 1683-6 北	×	方	全長 (6.9)m × (8.4)m		空き地も しくは区 画整理 で、国道 345号に なってい る	特になし
336 越後塚古墳 高崎市上中居町 540-10, 541-1・2 外	×	前方 後円	全長約 130m		越後塚古 墳	現在は住宅 地になって いる

注： × 存在しない △ 平面形状が認識できるには及ばない程度で墳丘が残存

表 1. 群馬県古墳総覧に載っているわが町の古墳リスト (その 2)

番号 名称 所在地	現状	墳形	規模	写真	今のすがた	特記事項
1664 綜覧：佐野村 69 号 古墳 (群馬郡佐野村大字 下中居字六反田 590)	×	不詳			「念仏塚」と呼ばれていた。	高崎市立中居小学校のプールのあたり
1665 綜覧：佐野村 70 号 古墳 (群馬郡佐野村大字 下中居字宇名室東 1055)	×	圓型			「笹塚山古墳」と呼ばれていた	現在は空き地になっている
1666 綜覧：佐野村 71 号 古墳 (群馬郡佐野村大字 塩中居字宇名室 1227, 1228)	△	圓型	(60 尺) 約 18m		諏訪神社の本殿が建っており、小山のようになっている。	次の章を参照
1667 綜覧：佐野村 72 号 古墳 (群馬郡佐野村大字 上中居字辻薬師 1668)	×	圓型	—		「真珠塚」という碑が建っており、正観寺によって手入れされている。	平成 20 年 9 月 11 日にここで、青銅鏡の破片を使用した「破鏡」が出土した。
1668 綜覧：佐野村 73 号 古墳 (群馬郡佐野村大字 上中居字荒神 307 其他)	×	圓型	—		特になし	特になし

注： × 存在しない △ 平面形状が認識できるには及ばない程度で墳丘が残存

表 1. 群馬県古墳総覧に載っているわが町の古墳リスト (その 3)

番号 名称 所在地	現状	墳形	規模	写真	今のすがた	特記事項
1669 綜覧：佐野村 75 号 古墳 (群馬郡佐野村大字 上中居字島薬師 640,641,638)	△	圓型	—		「おびん ずる」と 呼ばれて いたらし い。	墳丘らしき 形状はどこ にも見られ なかった

注： × 存在しない △ 平面形状が認識できるには及ばない程度で墳丘が残存

5. 上中居総鎮守諏訪神社

上記表 1 の古墳リストの中で、もっとも古墳らしい形状が残っているのが番号 1666 の上中居総鎮守諏訪神社（以後、諏訪神社と呼ぶ）です。この古墳は自宅から約 400m のところにあります。自宅のすぐ近くに現存する古墳があることにわくわくしました。

諏訪神社とその古墳について、詳しく知りたいと思い、まずはインターネットで諏訪神社[4]について調べた後、実際に訪問し、神主さんにインタビューさせていただきました。



図 1. 諏訪神社 訪問日：2021 年 8 月 19 日 (木)



図 2. 諏訪神社 正面の拝殿

5.1 諏訪神社の古墳の由来

この古墳は 4 世紀後半に建てられたとされる竪穴式の円墳です。大きさは直径約 20 m です。竪穴式とは古墳の上から下に向かって穴を掘って棺と埋葬品を埋め、その後石室を作って土でふたをした古墳であり、比較的古代時代の前期に造られたものであるということです。長年、古墳が風雨にさらされた結果、表面が削られ、土砂が流れ出て、周囲に堆積したため、昔は、古墳の裾が今より約 1.5m 下にありました。また、古墳の頂上は、現在よりも 2、3m 高かったとされています。今の古墳の高さが

約2mなので、かつては約4～5m、家の2階部分くらいまでの高さがあったのではないかと推測されます。



図3. 古墳を本殿裏から見上げたところ



図4. 古墳の頂上



図5. 右側が本殿



図6. この辺りの高さまで古墳があった

古墳の中央には、本殿が建てられています。ちょうど古墳の真上に本殿が建っている形です。この神社自体は、平安時代末期には建てられたとされていますが、古墳が建てられた当初から、古墳の上にお社があったそうです。そのお社が、果たして神様のために建てられたものか、それとも古墳に眠る人を祭るために建てられたものかは不明です。



図7. 古墳の上に建つ本殿の裏側から



図8. 本殿内部の中央

5.2 諏訪神社の古墳の調査

群馬古墳総覧に掲載された後、教育委員会の調査が入り、試掘されました。古墳に向かって3本の溝を掘り、古墳の中心を割り出し、出土品があるかを調べました。結果は何も出てこなかったようですが、その後、神主さんが周辺を掘り、何かの破片らしきものを発見したそうです。



図 9. 試掘調査のトレンチ跡 (その 1)



図 10. 試掘調査のトレンチ跡 (その 2)



図 11. 当時の試掘調査の様子



図 12. のちに見つかった破片など

5.3 諏訪神社の由来

この神社は柁に囲まれており、皆から「ひいらぎ様」と呼ばれて親しまれてきました。柁は昔から魔除けとされています。この大神様は、柁の精を受けて災禍を除け、身体安全、交通安全のご神徳もあります。この神社は、長野県諏訪市にある諏訪大社から勧請（かんじょう：神仏の分身・分霊を他の地に移して祭ること 明鏡国語辞典より）されました。その背景には、戦国時代に武田信玄が西上野を攻めた際（文献[5]よれば 1566 年ごろ：箕輪城に侵攻）、諏訪神社を各地に建てるようお触れを出したのが理由ではないか、と神主さんの説明がありました。



図 13. 柅の大木



図 14. 柅のご神木

諏訪神社の神主さんから、さらに近所の古墳について興味深いお話を伺ったので、さらに近所に存在する古墳を実際に詳しく調べていくことにしました。

6. 真珠塚

文献[2,3]を参考に、私の家に最も近い古墳を調べたところ「真珠塚」がありました。ここは普段よく通る場所であり、碑が建っていることは気づいていましたが、まさかここにかつて古墳であったとは知りませんでした。さらに驚いたことに、平成 20 年 9 月 11 日に青銅鏡の破鏡がこの場所から出土 [6,7]しました。破鏡が出土するのは東日本ではまれで、関東では三例目だそうです。



図 15. まさかここ真珠塚から破鏡が出土するとは



図 16. 真珠塚は普段素通りする場所でした



図 17. 真珠塚 上毛新聞記事（平成 20 年 10 月付）



図 18. 真珠塚 高崎市広報（平成 20 年 11 月 15 日号）

7. 越後塚古墳

群馬県古墳総覧[2,3]と文献[8]を参考に諏訪神社の神主さんの話を照合すると、高崎市上中居町にかつて巨大な前方後円墳（越後塚古墳）があったことがわかりました。総覧には、かつての姿として前方後円墳という記載はありましたが、現在の地図からはその姿を知ることはできません。けれども、諏訪神社には、古い地図（図 19）が残っており、その地図からは前方後円墳の丸い部分が見て取れます。この古墳は、存在していたら群馬県の中でも最大級の前方後円墳となります。前方後円墳は当時、朝廷の許可がなければ建てられないものだったので、この越後塚古墳に眠っていた人は、とても地位の高かった人なのだと思います。



図 19. 明治時代の上中居町の地図



図 20. 越後塚古墳が存在していたとされる場所

8. おわりに

私は、この研究を通して、古墳は身近にたくさんあったということが分かり、古墳の存在をより強く感じるようになりました。今までは古墳が自分の町内にあったとは知らなかったので、古墳なんて自分に縁のないものだと思ってました。また、古墳に眠っている人の話や、出土品の話聞くうちに、古墳について興味がわき、古墳についてもっと調べたいと思うようになりました。来年は、群馬の中でも有名な古墳や出土品を現地調査し、それについてインタビューしたいです。

参考文献

- [1] 群馬県立歴史博物館 編集, 群馬県立歴史博物館第 103 回企画展 展示図録 「古墳大国群馬へのあゆみ」, 群馬県立歴史博物館, 2021.
- [2] 群馬県教育委員会事務局 文化財保護課 編集, 群馬県古墳総覧 一本文・一覧表編一, 群馬県教育委員会, 2017.
- [3] 群馬県教育委員会事務局 文化財保護課 編集, 群馬県古墳総覧 一古墳分布図編一, 群馬県教育委員会, 2017.
- [4] 上中居総鎮守諏訪神社ホームページ, <http://xn--fhq2cy45cxh2ateay54h86a.jp/index.html> 閲覧日 2021 年 8 月 14 日.
- [5] 高崎市ホームページ, 箕輪城跡(高崎市の文化財), <https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013121600330/> 閲覧日 2021 年 8 月 15 日.
- [6] 上毛新聞記事, 中国製の「破鏡」出土, 2008(平成 20)年 10 月付.
- [7] 高崎市広報, 破鏡が県内で初めて出土しました, 2008(平成 20)年 11 月 15 日号.
- [8] 右島和夫, 群馬の古墳物語 一東国の古墳と文化を探る一 下巻, 上毛新聞社 出版部, 2018.